



化石館だより

コラム

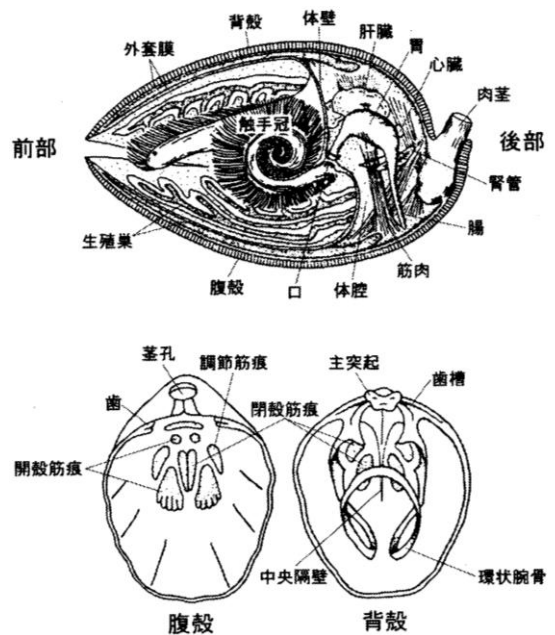
腕足類 二枚貝に似た不思議な生物

腕足類って何？

腕足類（腕足動物：Brachiopods）という名前を聞いてもイメージできない方が多いと思います。腕足類は二枚貝に似て二枚の殻で身を包んでいますが、二枚貝や巻貝が属する軟体動物とは別グループの動物ですから貝類図鑑には紹介されていません。また、食用にもなりませんので魚介売り場に並ぶこともありません。そのような生物ですが、古生代から現在まで脈々と命をつないでおり、特に古生代においてはウミユリやカイメン、サンゴなどと共に生物礁の形成において主役となっていたのです。

腕足類の外観は二枚貝によく似ていますが、異なる部分が多々あります。二枚貝の二つの殻は、牡蠣など一部例外がありますが、ほとんどが左右対称になっています。しかし、腕足類の殻はそれぞれの形が異なっているのです。どちらかの殻一つを観察すると、二枚貝では左右対称になりませんが、腕足類では左右対称になります。さらに殻の内部を覗いてみると、二枚貝には足や筋肉、内臓などの食用となる軟体部がぎっしり詰まっています。一方の腕足類には軟体部分がほとんどありません。空洞部分が多く腕骨に支えられた触手冠の周りにわずかに消化管や生殖巣がみられるだけです。腕足類は、触手冠に付属する繊毛を動かすことで水流を生み出し、水を吸い込んでプランクトンや浮遊する有機物を濾し取って食べています。

なお、二枚貝の殻は体の左右を覆っていることから、「右殻・左殻」といいますが、腕足類の殻は体の腹側と背側を覆っていますので、「腹殻・背殻」といいます。



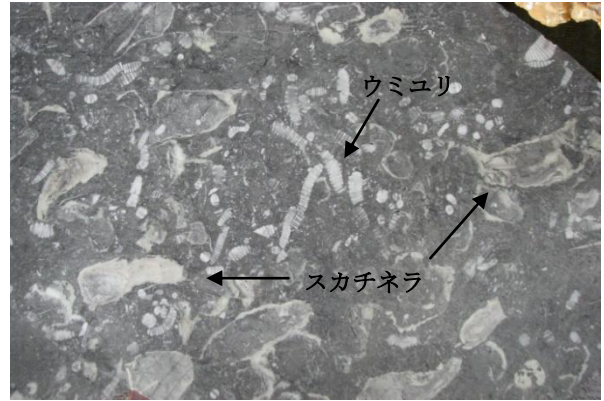
腕足類の形態

日本列島の生い立ち 田沢純一（2010）より抜粋

金生山の腕足類化石

金生山の腕足類化石については、主に外部形態によって同定され、15種類程が報告されていますが詳しい研究は行われていません。

金生山では下部層から、エンテレテス類、レプトダス類、スカチネラ類など、大形の腕足類化石が密集して産出します。下部層では、ウミユリが多産しますし、サンゴも産出しています。下部層が堆積した当時は海水の流れが強いリーフと呼ばれる場所で、腕足類やウミユリ類、サンゴ類などにとっては餌となる浮遊物が多い好適な環境であったと考えられます。



ウミユリ と スカチネラ

中部層や上部層では、腕足類の化石は小型のものになり、大形の巻貝や二枚貝などの軟体動物が多産するのに比べて数も少なくなります。この時期の環境は、砂や泥底で海水の流れがゆるやかなラグーンとよばれる環境に変わったと考えられます。この部層で特徴的な腕足類はデルビア類です。



デルビア

(文責：高木洋一)

最上部層では、中・小型の種類が産出しています。中部層や上部層に比べて産出数が多くなり、腕足類に好適な環境に変化した可能性があります。一方、この部層では大形の軟体動物は見られなくなります。上部層から最上部層に移行する時代は、古生代末に生じた生物の大絶滅の前段部分に相当しています。この後、中生代との境界では多くの腕足類が絶滅し多様性が失われていきます。

お知らせ

自然講座の開催

10月の14日・21日・28日（いずれも日曜日）の午前中に開催を予定しています。

陸生の貝類を採集・観察したり、顕微鏡を用いて微化石を観察したりします。また、石灰岩の碎石から化石を探す活動も予定しています。詳しくは金生山化石館へお尋ねください。

わくわく体験

金生山産のフズリナやサンゴ化石を用いた標本作りやアクセサリ作成の他、レプリカ作成や化石クリーニング体験などを準備しています。来館時にいつでも体験できます。ご利用ください。

問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)
Email kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp